

## Wordianにおける超海洋起源石灰岩のストロンチウム同位体層序：高千穂の例 The strontium isotope stratigraphy in the Wordian of the mid-oceanic paleo-atoll limestone at Takachiho in Japan

西田 昂広<sup>1\*</sup>, 磯崎 行雄<sup>2</sup>, 可児 智美<sup>3</sup>  
NISHIDA, Takahiro<sup>1\*</sup>, ISOZAKI, Yukio<sup>2</sup>, KANI, Tomomi<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻, <sup>2</sup> 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻, <sup>3</sup> 熊本大学大学院自然科学研究科(理学)

<sup>1</sup>Graduate School of Science, The University of Tokyo, <sup>2</sup>Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo,

<sup>3</sup>Department of Earth and Environmental Sciences, Kumamoto University

古生代の GL 境界直前の絶滅に関わる環境変動を明らかにするために、宮崎県高千穂町で超海洋中央部周辺起源の浅海性の石灰岩の分析を行った。60m のボーリングコアを用いて、まず岩相層序を明らかにし、フズリナ生層序によって年代決定をした。87Sr/86Sr を 15 層準で測定し、値が 0.7072 から 0.70735 に集中していることを明らかにした。87Sr/86Sr は Capitanian(Guadalupian 後期) で顕生代で最小値 (0.7068 ~ 0.7069) となることがわかっている。本研究で、Capitanian が始まる前の少なくとも Wordian(Neoschwagerina Zone) の間は 87Sr/86Sr は比較的高い値を保つということが明らかとなった。

キーワード: 大量絶滅

Keywords: mass extinction